

## 《研究論文》

国際バカロレア (IB) における探究的な学びとは  
— DP 修了生による History (歴史) の学習を事例として —

魚山 秀介

帝京大学大学院教職研究科

## 要 約

本稿は国際バカロレア・日本語 DP コースを修了した筆者の娘から、特に「歴史」の学習について聞き取りしたことをふまえて、国際バカロレアにおける探究的な学びの意義について論考した。また、日本語 DP「歴史」に教師が取り組むことは、「歴史総合」や「日本史探求」、「世界史探求」での探究的な学びをおこなう上で非常に有益であり、その様な有能な教師を養成するためには現在の学部4年間での教職課程履修では不十分ゆえ、大学院修士課程修了（教職大学院修了）レベルの教員養成プログラムが必要であることを主張した。最後に、修了生の生徒や保護者からみた日本語 DP のメリット、デメリットおよび今後の普及のための方策についても具体的な提案をおこなった。

キーワード：国際バカロレア 探究的な学び 日本語 DP 大学入試 歴史総合 教科専門

## 1. はじめに

IB（国際バカロレア International Baccalaureate 以下、IB。）とは、1968年に設立された国際バカロレア機構（本部スイス・ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムであり、「特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成すること」<sup>1)</sup>が期待されている。

ジュネーブは国際機関が多く集まる都市であることから、各国からの駐在員及びその家族が多く、帰国後も帰国先の大学進学に不利にならないための国際的な教育プログラムの開発が必要となったという。

そして IB は世界 150 以上の国・地域、約 5,500 校で実施<sup>2)</sup>（2022 年 5 月現在）されており、特に高校レベルの DP（ディプロマ・プログラム Diploma Programme 以下、DP）は、国際的に通用する大学入学資格として、世界各国の大学入学者選抜で広く活用されている。<sup>3)</sup>

日本では、「グローバル人材育成会議」（2012 年 6 月）が IB 認定校を 5 年以内に 200 校程度増やすよう提言した。そこで、「教育再生会議」（2013 年 5 月）は IB 機構との協力の下、DP 科目の一部を日本語で実施可能とする「日本語 DP」の開発、導入を提言し、2015 年 8 月に学校教育法施行規則の一部改正によって DP 認定校は、IB と学習指導要領の双方を無理なく履修できることが可能となった。<sup>4)</sup>

日本国内における IB 認定校は 207 校（2023 年 3 月 31 日時点）まで増加しているが、IB に対する認知度は依然として高いとは言いがたい。その理由として、筆者の娘が在籍していた学校は、DP を実施しているにも関わらず、「IB は海外大学進学に有利であるが、日本国内の大学には周知されていない」、「IB は課題が多くて日本国内の大学入試対策にまで手が回らない」という印象が生徒や保護者にあり、当初、DP への進学を希望していた生徒が断念するケースが少なくないようである。<sup>5)</sup>

なお、IB 教育に関連する書籍はこれまで何冊も

出版<sup>6)</sup>されているが、そのどれもが「教育者」から見た IB であり、教育の当事者である生徒や保護者の視点で率直に IB の現状と課題を記した論文など確認することはできなかった。<sup>7)</sup>

そこで本稿では 2022 年 3 月に日本語 DP を修了した筆者の娘からの聞き取りをもとに、生徒や保護者の視点からみた IB の現状と課題について論考する。なお、本稿は歴史教育者協議会第 73 回愛知／東海大会（2022 年 8 月実施）における（第 18 分科会 大学）で口頭発表した内容をまとめたものである。

## 2. DP コースを選択するに至る経緯とコア科目 TOK、EE、CAS の内容

娘は小学 6 年の夏に筆者の転勤（帝京ロンドン学園への出向。なお同高校は文科省在外教育施設で 2022 年 12 月現在、IB 認定校。）のためイギリスに赴任することが決まり、中学 1 年から 1 年間、ロンドン日本人学校に在籍した。

中学 2 年次、地元の現地校に転入してイギリスの論理的思考を重視する教育を初めて受け、特に歴史の試験で 2 行ほどの下記の問題文と数枚のルーズリーフのみが配られたときは、日本とイギリスの教育の違いに対して強い衝撃を受けたという。

問題：「1939 年の戦争勃発の主な原因は、イギリスとフランスがヒトラーに対して宥和政策をとったことである。あなたはこの言葉にどこまで同意しますか？」

そして、中学 3 年進級直前に日本へ帰国し、帰国生が多く通う都内にある独立法人国立大学の付属校へ編入学した。その学校は IB 一貫教育であり、11 歳から 16 歳を対象とした MYP（Middle Years Programme）を受けた。しかし現実には、グループワークを設けたとしても、教師が期待する「答え」がすでにわかってしまうような名ばかりの「アクティブ・ラーニング」であり、学校の学びに対して不満を抱くようになった。娘が在籍した学校は、高校

2 年進級時に IB の一貫教育である 16 歳から 19 歳までを対象とする DP に進学するか、日本の学習指導要領に基づいた一般クラスに進学するかを選択することになっており、このままの日本の教育内容・方法では自分は成長できないと考え、DP に進学することを決めた。

そして 2020 年 4 月から 2022 年 3 月の間、日本語 DP を履修し、IB 最終スコアは 38 点（45 点満点。）で国際バカロレア資格を取得し、学校型推薦選抜で国立大学・国際総合学類に合格して現在、同大学 1 年在籍中である。

日本語 DP のカリキュラムは主に 6 つのグループに構成されていて、1 科目ずつ各グループから選択し、最終的に 6 教科を 2 年間で履修する仕組みである。なお英語、数学、美術、日本文学、歴史、化学の 6 科目のうち、英語、数学、美術の 3 科目を英語で、そして残りを日本語で履修した。また、上記の他に 3 つのコア科目である TOK（「知の理論」：Theory of knowledge）、EE（「課題研究」：Extended Essay）、CAS（「奉仕」：Creativity, Activity, Service）も履修した。

なお、TOK とは、「私達はどのように知っているのか？」というコンセプトのもと、知識を得ることとはどのようなことかを学問領域別に探求する科目である。エッセイで出題された問いは次の内容であった。

「同じ学問領域内において、受け入れられた知識と論争されている知識の間で明確な線引きを特定するのは、なぜそれほどまでに難しいのか。異なる「知識の領域」から選んだ 2 つの学問領域に言及しながら答えなさい。」

この TOK での学びは、まさに今の中学・高校で教科として実施されている「道徳」・「総合」・「探究」に対応するとともに、「教科横断型」、「アクティブラーニング」、「探究的な学習」を用いた授業となっているという。

二つ目のコア科目である EE は DP の卒業論文にあたる。生徒が自分で選んだトピックについて自主

的にリサーチを進め、その成果を8,000字以内の正式な学術論文の形で発表する。娘は歴史を選択し、『『島根県による竹島の日条例は日韓関係に重要な変化をもたらした。』この主張にどの程度同意するか?』という問いのもと、日韓関係における竹島の日条例制定の重要性について調査研究をした。研究方法としては、海洋政策（軍事防衛）、国民世論（社会）、漁業問題（経済）の3つの観点で、戦後日韓関係における竹島の日条例がもたらした変化と連続を軸に分析をおこなった。なお、この主題設定理由は、筆者が取り組んでいた研究に娘自身も関心を持ち、2020年9月19日に島根県隠岐の島町で開催された「令和2年度 第2回竹島問題を考える講座」<sup>8)</sup>に筆者と娘が参加したことを契機としている。

三つ目のコア科目であるCASでは、頭文字で著された3つの要素に関連したボランティア活動及び学校外・内の活動を実施するだけではなく、事前準備・振り返りを「IBの学習者像」の人物像と関連づけて行うものである。娘は学校内の部活動及び課外活動としての日中高校生交流などをCASとして記録していた。

### 3. 日本語 DP 校の広がり 「探究的な学び」に不安を抱く教員

特に、近年は地方における公立の日本語 DP 認定校（市立札幌開成中等教育学校、宮城県仙台二華高等学校、広島県立広島観智学園高等学校、大阪市立水都国際高等学校、高知県立高知国際高等学校など）の開設が相次いでおり、IB教育に対する保護者や生徒の関心は高い。その理由として、学費が極めて高いインターナショナル・スクールとは異なり、低廉な学費で質の高いグローバル教育を受けることが可能ゆえ、志願者倍率は極めて高い。（例 2022年度の都立国際高校・国際バカロレアコースの志願者倍率は3.95倍。同校は英語DP。）なお、2020年5月及び11月に実施されたDP最終試験の国内受験者数は870人であった。<sup>9)</sup>

また、私学における日本語 DP 認定校（仙台育英学園高等学校、茗溪学園高等学校、昌平高等学校、

開智日本高等学校、武蔵野大学附属千代田高等学校、法政大学国際高等学校、山梨学院高等学校など）も近年、開設が相次いでいるが通常の学費以外にDPコース独自の費用がかかるケースが多い。<sup>10)</sup>

なお、2022年4月より新学習指導要領が高校でも全面実施され、「歴史総合」や「公共」などの新科目が実践されているが、探究的な学びやアクティブ・ラーニングに不安を抱いている一般の教員は多い。さらに、IB認定校で勤務する教員はIB資格を取得するためにIBの公式ワークショップへの参加が必須であるが、原則3日間と短期間であるが故に不安を抱いている教員も多い。以下は、帝京ロンドン学園教員が語った内容である。

「ワークショップでは、DPではどのような内容を取り扱うか、どのような試験問題が出題されるのかなどプログラムの基本的な内容を学んだ。しかし、教員ですらその問題を解くことは容易ではないと感じ、どのようにして教員が生徒に試験問題を解けるまでレベルアップさせるかなど、実践的な面では不安がある。」（以下筆者、下線。）

### 4. DP「歴史」の概要及び 6つの主要概念

DP「歴史」では、世界史を古代から現代まで広く学ぶのではなく、DP History guideの中で各学校ごとに指定したいいくつかのテーマについて深く学んでいく。娘の学校では、指定範囲はヨーロッパを中心とした20世紀の世界史に関わるテーマであった。

また、以下がDP生徒用ガイドに明記されている「歴史」のねらいである。

- 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。
- 多数のものの見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう生徒に働きかける。
- 複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な



視野を育てる。

- 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。
- 文献を的確に扱うスキルなど、歴史学の重要なスキルを習得する。
- 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。<sup>11)</sup>

DP「歴史」には6つの主要概念（変化、連続、原因、結果、重要性、視点）が指定されていて、これらの概念はDP「歴史」全体を通して大きな役割を果たしている。以下に述べる外部試験及び内部試験でも、これらの主要概念を意識したものとなっている。

また、論述試験（Paper 2 と Paper 3）で主に使われる指示語（Command terms）が以下5つ存在する。問題を解答するうえで、出題者が何を論述することをもとめているのかを理解するのに必要不可欠なものである。なお、個人研究である IA（歴史研究, Internal assessment）においても、自分で問いをたてる際に意識すべきものでもある。

- ① Compare and contrast 比較・対比しなさい
- ② Discuss 論じなさい
- ③ Evaluate 評価しなさい
- ④ Examine 考察しなさい
- ⑤ To what extent どの程度

## 5. 最終試験について

DP「歴史」には、内部試験と外部試験の2種類の試験が存在する。内部試験は期日までにレポートの提出を行うもので基本的に担当教員が評価づけを行う。一方、外部試験は決められた日程・時間に試験を行い、評価は全て国際バカロレア機構（IBO）が行う。なお娘が受験した2021年11月試験では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で通常の試験内容から何点か変更を行った形での試験となったた

め、以下の内容は全て2021年11月試験におけるものである。

内部試験は、配点比率20%に相当し、IAに取り組む。個人研究として、生徒自らが選択したトピックに関して、歴史的な考察を行い、4400字以内でまとめる。以下の3つのセクションから構成されるレポートの作成が求められる。

### ① Identification and evaluation of sources 資料の説明と評価

研究で使用する資料のうち2つを選んで、資料の出典・目的・内容について価値と限界、研究への関連性を分析する。

### ② Investigation 研究

研究課題に明確に沿った批判的分析と分析からき出される結論を述べる。

### ③ Reflection 考察

歴史学の方法論や歴史学者が直面する課題について自身の研究から明らかになったことを考察する。

外部試験は3種類の試験（Paper 1, Paper 2, Paper 3）が存在する。

Paper 1は配点比率20%に相当し、各学校で指定した「指定学習項目」（「3: 世界規模の戦争への動き」）の2つの事例研究（「東アジアにおける日本の拡張政策（1931-1941）」と「ドイツとイタリアの拡張政策（1933-1940年）」）の内1つに焦点が置かれた問題が出題される。スピーチ原稿や風刺画、歴史家による分析など一次資料・二次資料が混ざった資料が5つ出題され、各資料の分析や価値・限界の評価、与えられた資料と自らの知識を用いてエッセイを書く問題が出題される。

Paper 2は配点比率25%に相当し、計24問のうち、1つを選択して解答する論述式の試験である。実際に学校で学ぶのは計24問のうち、4問に相当するものである（娘の学校では、「11:20世紀の戦争の原因と結果」と「12: 冷戦: 超大国間の緊張と対立（20世紀）」）。例えば、「冷戦の社会的、経済的影響を、それぞれ異なる地域の2つの国で比較・対比しなさい。」という問題が過去に出題された。

Paper 3は配点比率35%に相当し、計36問のう

ち、2つを選択して解答する論述式の試験である。Paper 2と異なる点は、問いがより具体化された内容のものとなっていることである。実際に学校で学ぶのは計36問のうち、6間に相当するものである。なお娘の学校では、「14: 両大戦間のヨーロッパ諸国 (1918~1939年)」と「15: ヴェルサイユからベルリンへ: ヨーロッパの外交関係 (1919~1945年)」、「17: 大戦後の西ヨーロッパおよび北ヨーロッパ (1945~2000年)」を学習した。<sup>12)</sup>

## 6. 評価方法について

評価方法について、以下の通り項目ごとに評価基準が設けられている。採点者は評価基準を参考に評価を行う。DP「歴史」に限らず、DPでは評価基準が公開されているため、生徒も評価基準を正しく理解し、自分の解答へ生かすということを常に行っている。

### 評価目標1: 知識と理解

- 詳細、適切、正確な歴史の知識を示す。
- 歴史的概念と歴史的文脈に対する理解を示す。
- 歴史の文献に対する理解を示す。

### 評価目標2: 応用と分析

- 明確で論理的な議論を組み立てる。
- 関連性の高い歴史的な知識を使用して、分析を効果的に裏づける。
- さまざまな文献を分析し、解釈する。

### 評価目標3: 統合と評価

- エビデンスと分析を統合して、論理的な議論を構築する。
- 歴史上の問題や出来事についての異なる視点を評価して、議論に有効に統合する。
- 歴史的エビデンスとして文献を評価し、その価値と限界を認識する。
- 関連する文献から得た情報を統合する。<sup>13)</sup>

## 7. DPでの「歴史」における「探究的な学び」の内容

DP 1年目の授業は、主に Paper 1 と Paper 2 の内容を学んだ。カリキュラムに対応した教科書は存在するがそれら全て英語であるため、トピックに対して、教科書や関連する書籍の内容をまとめる形でグループごとにプレゼンテーションを行った。また、個々の戦争を取り扱う場合、時系列に出来事を並べるだけでなく、実際の試験問題で出題される形で模造紙に視覚的にまとめるというグループワークも行った。

DP 2年目の授業は、1年目の Paper 1 と Paper 2 の内容を引き続き学びながら、新たに Paper 3 の内容にも進んだ。また、最終試験が迫る時期であるため、試験を想定した授業が主に行われていた。例えば、DP「歴史」の指示語を用いて自らで問いを作り、その問いに対する解答まで考え、パワーポイント形式で発表するというものである。実際、娘が作成した問いが、「朝鮮戦争の重要性について考察しなさい。」である。

本授業では、発表者側が持っている知識を実際の試験の形に落とし込む練習となるだけではなく、発表者以外の生徒も、問いに対して明確に答えられているかを学ぶことが可能とのことであった。もっと良い構成、知識、データはないかなど評価基準と照らし合わせて疑問を投げかけ、議論を重ねることで、発表者側が当初考えていたものよりも、全体としてより良い解答を導き出すことが可能となったという。

## 8. DP「歴史」の学びを振り返って

娘は約2年間のDP「歴史」を通して、最も成長できた点は批判的分析能力だと述べた。DP進学以前も批判的分析の重要性を娘は理解していたつもりであったが、それはDP「歴史」を修了した現在の娘が考える批判的分析とは異なり、大きな勘違いをしていたという。

DP「歴史」を受講する以前の娘は、批判的分析とは批判の材料を文章に入れば成り立つものだと

安易に考えていた。しかし、DP「歴史」の授業では、批判的分析とは「異なる視点」を取り入れることでありと学んだ。またより具体的には、DP「歴史」の主要概念の中で挙げられた「視点」では、政治・経済・社会・イデオロギーや長期的・短期的という異なる角度から分析を行う手法を学んだ。さらに、そのような複雑に絡み合った原因の重要性を評価する際には、確かな根拠を持って重要性を主張することを学んだともいう。また、論理的な議論の展開には、ただ歴史的事実を述べる記述的・描写的文章ではなく、問いへのつながりを意識した、根拠を示して論を裏付ける分析的な文章を書くことを学んだ。

一方、DP「歴史」の学びは、日本の大学受験にも大きく役に立ったという。娘が受験した国際総合学類の令和4年度推薦入試では、小論文試験問題で「『冷戦とはいったい何だったのか。』に関して、あなたの考えを600字以内で述べなさい。」という問題が出題された。「冷戦」という内容がDP「歴史」で学んだ内容と重複しており、深い知識・分析ができてだけでなく、DP「歴史」の論述試験の中で何度も書き上げた構成と小論文の基本である構成（イントロダクション→内容①→内容②→結論）が合致していたこと、自分の主張をより説得力のあるものにするためには、反論できる意見をあえて入れ、その意見を反駁すること、などDP「歴史」で学んだ様々な能力が発揮できた機会であったと述べていた。

## 9. DP「歴史」と「歴史総合」や「日本史探求」、「世界史探求」との関係

国際バカロレア（IB）における探究的な学びについて、History（歴史）を事例として娘の体験を述べてきたが、「複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な視野を育てる」というDP「歴史」のねらいの一部と今年4月から高等学校の現場で新たに実践されている「歴史総合」のねらいは共通するので先行して実践されているDP「歴史」の取り組みは保護者としても非常に興味深い内容であった。

また「指導と評価の一体化」が日本の教育現場で

も重視されるようになり、新学習指導要領ではすべての教科に共通する「資質・能力の三つの柱」が明示され、特に「個別の知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の他に提示された「主体性・多様性・協調性 学びに向かう力 人間性など」についての評価をめぐって現場は混乱しているが、評価基準（観点）だけでなくの評価基準（目安）も明記されている<sup>14)</sup> DP「歴史」は参考になるのではないかと筆者自身は認識している。そして、「探求の問い」を設定するまでのプロセスが明確であることや歴史学研究の方法論を生徒が身につけることができるという点で教師にとってもDP「歴史」教育実践は、今後の「歴史総合」や「日本史探求」、「世界史探求」における教員養成のあり方に大きな影響をあたえると認識している。

具体的に言えば、DPの探求型学習において教科内容に関する専門性が不可欠となるので、現在の学部4年間での教職課程履修では不十分であるので大学院修士課程修了（教職大学院修了）レベルの教員養成プログラムが必要となってくる。<sup>15)</sup>

山本勝治（前東京学芸大学附属中等教育学校教諭）は、「教師主導型の授業では、何をどのように教えるかを検討するために深い教材研究が必要であった。それに対して、『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業においては、生徒の多岐にわたる主張や疑問にファシリテーターとして適切に対応できるようにするために深い教材研究が必要となってくる。教材研究の位置付けは異なるが、いずれにおいても教科の専門性が大切であるという点は不変である」<sup>16)</sup>と述べているが筆者も同意見である。

## 10. IBと日本の国立大学入試

一般社団法人国立大学協会は「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」（2015年9月14日）を発表し、「1:優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備」として、「確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。（例）大学は、多面的・総合的な評価を含み、個々の大学のカリキュラムポ



リシー、ディプロマポリシーに沿って学修をすすめることができる者を選抜できるように入試改革を推進するとともに、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の導入を拡大する。」としている。

しかし、娘が志望していた国立大学における国際バカロレア特別入試で合格した人数は志願者数に対してごく僅かであり、特に志望学部であった国際総合学類での合格者数は娘が受験した年度より以前はゼロであった<sup>17)</sup>ので学校推薦型選抜を受験した。つまり、国立大学協会は国際バカロレア入試導入の拡大を推進しているが、大学教員のIBに対する認識不足やDP最終試験の時期(2021年度は10月27日～11月10日)が国公立大学の学校推薦型選抜や私立大学の総合型選抜(旧AO入試)と重なることなどの要因から、現在の日本の大学入試制度において国際バカロレア入試は課題が多いと言わざるを得ないことを受験生の保護者として実感した。

## 11. 日本とイギリスにおける大学入試の違い

文科省HP「大学入試のあり方に関する検討会議」(以下、「検討会議」)配布資料「大学入学者選抜の国際比較」①～③<sup>18)</sup>によれば、各国の大学入学資格は「高校の卒業」か「中等教育学校の出口での評価」の二つに大別されている。イギリスは16歳の義務教育終了から大学進学・就職に分離される国であり、大学進学を希望する者は「シックスフォーム」という2年課程に進級し、その課程を終了した時に実施されるAレベル試験において各大学が指示する3つの科目を受験し、内申書や志望動機、推薦書などを共通出願プラットフォームであるUCAS「Universities and Colleges Admissions Service」へ5大学まで出願し、合否が決定するという仕組みである。なお、オックスフォードとケンブリッジ大学のみは個別試験があるという例外はあるが、イギリスは「後期中等教育学校の出口での評価」が大学の入学資格となり、各大学による個別試験がないので「認定」という色彩が強く、日本の様に大学受験を控えた高校生が放課後に塾へ行って受験勉強をす

るということはない。

一方、日本・アメリカ・韓国のように後期中等教育が目的ごとに分離されていない国は「高校の卒業」が大学の入学資格であるので、「大学で学ぶために必要な能力を身に付けているか」を確認するための入学試験を各大学が実施しており、「選抜」という性格が色濃い。<sup>19)</sup>

また、日本では英検などの英語民間試験の入試へ利用が問題となっているが、イギリスでは「政府の第三者機関であるOfqual(資格・試験監査機関)が、各種資格試験について、運営・質・公平性・利益相反などの観点で、信頼性担保のための規定を定め、定期的に監査を実施している。利益相反を防ぐ仕組みとして、試験団体が問題集を出版する際のルール(過去問の使用禁止等)や採点者の管理の仕方が細かく規定されている。」が「日本には十分な数の専門家がいらない。」とのことである。つまり、「検討会議」によればイギリスは、『教育における社会的公正の実現』が、最重要の原理・原則(Norm)であり、学力や進学機会の『格差を縮減する(Closing Gap)』ことが就学前から高等教育を貫く政策目標(Value)とされている。」とのことで、今後の日本の大学入試制度のあり方を検討する上で非常に重要な視点であろう。

総括すれば、欧州に起源を持つIB(DPスコア)はイギリスのAレベル試験のような「後期中等教育学校の出口での評価」であって大学の入学資格であるにもかかわらず、日本の各大学による入試は「選抜」という性格が強いことから、日本の大学入試制度において国際バカロレア入試を導入することは様々な課題があるといえる。

## 12. DP修了生や保護者からみたDP履修のメリット、デメリット

娘からの聞き取りや保護者としての立場から認識した日本語DP履修のメリットは以下である。

- ・海外大学、特にイギリスやオーストラリアへの大学進学の場合、学士号取得には約1年間のファン

デーモンコースに加えて約3年の専門課程の履修が必要であるが、IBを活用した入学者選抜で合格すれば約3年間の専門課程履修のみで学士号取得が可能である。つまり、帰国子女でなくとも帰国生枠の国内大学やファンデーモンコースを経ない海外大学受験が可能になる。また、アメリカへの大学進学の際、DP修了生は一部の科目が単位認定され、より専門的な学びが可能になる。

- ・高校2年、3年の2年間で理系、文系の科目をバランスよく、しかも各科目が探究的な学びを主体としているので「国際的な幅広い視野と高い専門性を有するグローバル人材」育成が可能である。
- ・各教科の他に、TOK、EE、CASという3つのコア科目を履修することで生徒の論理的思考や創造性の育成が可能となる。
- ・各科目においてかなりの量のレポート提出を同時期に要求されるので生徒の負担はかなり重いので自己調整能力やレジリエンスが高まる。

一方、DP履修のデメリットとして以下の点が挙げられる。

- ・娘が在籍していた学校は国立であったので、通常の学費は年間約12万円と低額だったが、DPコース履修者は年間別途約50万円が必要と高額である。
- ・最終スコア38であったが、予想スコア（Predicted score）が33で大きな誤差があった。国内大学やイギリスの大学進学の場合、予想スコアで出願するので予想スコアが入学判定において極めて重要であるので、評価の信憑性に疑念が残る。
- ・DP最終試験が毎年10月末に実施されるので、国内大学の学校型推薦選抜入試日程と重なり、国内大学志望者にとっての負担はかなり重い。

### 13. DP修了生、その保護者が考察した日本におけるIB普及のための方策

最後にIB普及のための具体的方策について以下、提案して本稿を終えたい。

- ・国公立大学や私立大学の入試担当者や教員は日本語DPの特性をよく理解し、IB入試制度の導入をより拡大すべきである。また、入試選抜時期も再検討すべきである。<sup>20)</sup>
- ・娘は日本語DPで質量ともに深い学びをおこなってきたので国内大学、特に1年次の一般教養科目に物足りなさを感じている。そこで、日本語DP修了生が国内大学に進学する場合、3年間での学士号取得を可能とする。

#### 註

- 1) 「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議 中間取りまとめ」  
2017年5月 国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議 1
- 2) 「IBプログラムについて」文科省IB推進コンソーシアムHP  
<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>  
(2023.2.26 最終閲覧)
- 3) 次橋秀樹は「国を超える大学入学資格としての国際バカロレア」において以下の様に述べている。「一般的に見ても、レベルの高さや費用等を考えれば、DPについては万人向けのプログラムとは言い難いのが現状である。実際、IBは50年の歴史を有するものの、長くその利用は国際学校を中心にした限定的なものであり、広くも認知されていなかった。」『変動する大学入試資格か選抜か ヨーロッパと日本』大修館書店、2020年 p.234.
- 4) 「国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導



入を促進するための教育課程の特例措置について」(平成27年8月26日 教育課程部会 参考資料2)

- 5) 娘が在籍していたDPコースは1クラス、16人であったが当初の希望人数は約30人(高校1年4月時点)であった。しかし、その後の説明会実施後、DPの厳しさから断念するケースが多くあったという。なお、DP以外でも探究的な学習を本格的に実施するためには1クラス15人以下の定員が不可欠である。
- 6) 以下の書籍などが挙げられる。
  - ・坪谷 ニュウエル 郁子 (2014)『世界で生きるチカラ 国際バカロレアが子供たちを強くする』、ダイヤモンド社
  - ・大迫弘和 (2016)『アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア:「覚える君」から「考える君」へ』、日本標準
  - ・半田淳子編著 (2020)『国際バカロレア教員になるために TOKとDP6教科の学びと授業づくり』、大修館書店
- 7) 例えば下記論文における「DP歴史」の特徴～DP生の声から～では、「生徒は楽しみながら歴史について探求して歴史学の方法を身につけつつある様子が、アンケートの回答から窺える」としているが、「DP歴史」履修者の全員が歴史好きとは限らないと娘は述べていた。  
山本勝治 学習・評価一体型の「DP歴史」授業実践 ―「歴史総合」での活用を視野に入れて―シンポジウム報告 日本歴史学協会年報 第35号 2020年 日本歴史学協会 pp.79-80.
- 8) 島根県 WEB 竹島問題研究所 HP 参照 <https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/pref/takeshima/web-takeshima/index.html> (2023.2.26 最終閲覧)
- 9) 以下参照。 <https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/diploma-programme-and-career-related-programme-statistical-bulletin/> (2023.2.26 最終閲覧)
- 10) 私学の場合、学校によって異なるが例えば立命館宇治高校 IB コースは通常の学費以外に別途約60万円が必要と授業料が高額である。なお

私学がIBコースを開設する場合、教員採用のための人件費や設備費投資など多額のコストがかかるにも関わらず、募集人数確保のためその負担分を授業料にそのまま転嫁することは困難である。しかし、IBコースを担当することによって教員のスキルは向上するので、教員研修の観点から私学におけるIB導入は学校の特色化、差別化といった観点からも有益であることを学校経営者は理解すべきである。

- 11) 以下参照。  
[https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/history-hl-2017\\_jp.pdf](https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/history-hl-2017_jp.pdf) (2023.2.26 最終閲覧)
- 12) 以下参照。  
[https://www.ibo.org/contentassets/7f6c7681e-0b34fc8b0541c1229c7521d/gp3\\_historyhsl2.pdf](https://www.ibo.org/contentassets/7f6c7681e-0b34fc8b0541c1229c7521d/gp3_historyhsl2.pdf) (2023.2.26 最終閲覧)
- 13) 以下参照。  
[https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/history-hl-2017\\_jp.pdf](https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/history-hl-2017_jp.pdf) (2023.2.26 最終閲覧)
- 14) 山本勝治 学習・評価一体型の「DP歴史」授業実践 ―「歴史総合」での活用を視野に入れて―シンポジウム報告 日本歴史学協会年報 第35号 2020年 日本歴史学協会 pp.82-83.
- 15) 小嶋茂稔「歴史総合」の時代における教員養成の課題 第17回教科書シンポジウム 歴史教科書 いまとこれから (2022年9月25日 早稲田大学)
- 16) 前掲書 14) 山本勝治 p.84.
- 17) 過去3年間のデータは以下である。

年度	全学志願者数	全学合格者数	国際総合学類志願者数	国際総合学類合格者数
2022年	34	9	2	1
2021年	32	7	7	0
2020年	33	3	4	1

- 18) 以下参照。 [https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt\\_daigakuc02-000016365\\_7\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_daigakuc02-000016365_7_1.pdf)
- 19) 伊藤実歩子『変動する大学入試 資格か選抜か

ヨーロッパと日本』大修館書店、2020 年  
20) 例えば、上智大学の国際バカロレア（IB）入試  
は第 1 期入試（出願提出期限 8 月上旬  
[https://www.sophia.ac.jp/jpn/admissions/gakubu\\_ad/2023ib.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/admissions/gakubu_ad/2023ib.html) および第 2 期入試（出願  
提出期限 1 月上旬）[https://www.sophia.ac.jp/jpn/admissions/gakubu\\_ad/2023ib2.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/admissions/gakubu_ad/2023ib2.html) に  
分けて毎年実施している。

([https://www.mext.go.jp/content/20210521-mxt\\_daigakuc02-000015074\\_9\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210521-mxt_daigakuc02-000015074_9_1.pdf))  
(2023.2.26 最終閲覧)

## 参考文献、論文

山本勝治 中等社会科教師の専門性育成 2022 年  
2 月 学文社 「第 19 章 国際バカロレアと社会  
科」

山本勝治 第一次世界大戦原因論に関する一考察  
開戦 100 年後の議論を踏まえて 開智国際大学紀要  
第 21 号 (2022) pp.49-62.

山本勝治 構成主義に基づく歴史の授業実践：「主  
体的・対話的で深い学び」を実現するために  
国際中等教育研究 東京学芸大学国際中等教育学校  
研究紀要 15 号 233-244. 2022 年 3 月

川手圭一 「歴史総合」の構想と教育現場をつなぐ  
もの  
歴史教育シンポジウム報告 日本歴史学協会年報  
第 37 号 2020 年 日本歴史学協会

国際バカロレア「DP 歴史」における「主体的・対  
話的で深い学び」の実践 - DP 生の声をふまえた  
提言 - pp.20-29.

日本社会科教育学会 平成 30 年度 春季研究会  
国際バカロレア（IB）を視野に入れた社会科の実  
践と評価（報告書）

IB「国際バカロレア」DP（デプロマプログラム）  
の教育手法を援用した『日本史』授業の一考察  
浅井信雄 関西学院大学 教職教育研究センター紀  
要 23 号 79-89. 2018 年 3 月